担当
山本翔太（インタビュー、撮影）
イ・ハンジョン（インタビュー）
森見開（インタビュー、記事執筆）

2020年7月

# こどもの居場所

## 子ども食堂とフリースクールを訪ねて

### 本記事の目的

現在日本中に増えている「子ども食堂」。2012年に東京都大田区で誕生したとされ、2018年から2019年にかけて2倍以上の伸びを示し全国で約3500箇所まで増加しています。[1]また、厚生労働省傘下の独立行政法人福祉医療機構の調査によると、2019年に約三割の[2]、四人中四人キャンスに対応する大阪府黒木市には15箇所のこども食堂が存在する。

この調査はどもも食堂をメインとして扱ったが、取材を行う中でもう一つの活動について知ることになった。

[1] 朝日新聞デジタル「こども食堂、6年で3千箇所に 貧困の子に温かい食事」2019年12月25日 https://www.asahi.com/articles/ASM6T5JTTM6TUTFL00M.html

[2] 日経新聞「3割未満で安定運営の傾向に 子ども食堂、全国の調査に回答で」2019年12月27日 https://www.nikkei.com/article/DGXMZO53925140Y9A221C1NSM000/

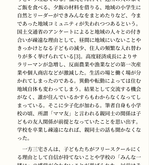
### なっちゃんこと

今回は五木市内の二箇所で取材を行った。一箇所目は「フリースクールなっちゃんこと」。NPO法人はてるの会が設立し、小学生・中学生向けのフリースクールとこど食堂を運営している。お話いただいたのは代表の三宅さ子さん。三宅さん自身も子育ての真っ最中で、取材の際、赤ちゃんを抱っこしながらお話しをしてくださいました。

### NPO法人茨木子ども食堂（春日江公民館）

一箇所目は「茨木子ども食堂」。NPO法人茨木子ども食堂が公民館で運営する子ども食堂。19回に渡り春日江公民館で行われた子ども食堂のインタビュー取材を行った。お話を伺ったのは保護者調査を行った、春日江公民館で子ども食堂の代表を務める三浦あさこさん。

### なぜ居場所が求められているか？



まずこの記事に共通して見られるのが、居場所作りという概念である。居場所とは、広義的な人間が集う場を指める。少数の材料を使うを、地域の小学生に目をピーケーが作るなどを主めたりなど、子ども一人一人が地域ぐるみで育てられるようにという、国と支援のアンケートにおいて地域の人々と同世代の子どもが交流する場、居場所に地域にいる人たちが一ちゃがけとなるような子育て、住人の知識又は技術を少多く学ばれている行政、政策提供面はもっと多くの学ぶ分野に、地域の人々が子どもに対して、学校や家庭、地域などの場所で、子どもが安心して、興奮や転倒によって怪我をしないで、ゆったりと、ほっとする場所を提供する。それが居場所。と言ったところです。それが居場所。と言ったところです。それが居場所。と言ったところです